

学会記事

2018年度第3回理事会議事録

日時：2018年12月1日（土）12:00～13:30
会場：産業技術総合研究所 共用講堂内研修室（つくば市東1-1-1）

出席役員 理事（29名）：天野一男 安藤寿男 石橋 隆 磯崎行雄 ウォリス サイモン 大藤 茂 岡田 誠 狩野彰宏 神谷奈々 北村有迅 亀尾浩司 小松原純子 斎藤 眞 佐々木和彦 沢田 健 杉田律子 竹内 誠 田村嘉之 中澤 努 西弘嗣 早坂康隆 平田大二 廣木義久 星 博幸 保柳康一 松田博貴 道林克禎 山口耕生 山路 敦 監事（2名）：藤本光一郎 山本正司

（事務局）橋辺・秋葉

欠席役員 理事（21名）：井龍康文 岩井雅夫 緒方信一 折橋裕二 笠間友博 亀田 純 川端清司 小宮 剛 坂口有人 菖蒲幸男 菅沼悠介 高嶋 洋 竹下 徹 田村芳彦 辻森 樹 奈良正和 楡井 久 福富幹男 三田村宗樹 矢島道子 山崎 晴雄

* 成立要件：理事総数 50名の過半数 26名 本日の出席者 29名で本理事会は成立。

議決：出席者の過半数 15名

* 開催にあたって、山口理事および廣木理事を書記に指名した。

* 松田会長より、理事会開催時点におけるつくば特別大会の参加者数（195人）の報告と大会スケジュールによる本理事会の時間短縮について説明があった。

報告事項

1. 執行理事会報告（斎藤常務理事）

10. 11月執行理事会議事録をもとに、執行体制の見直しや記念事業の紹介等、議事録概要の説明があった。

前回理事会以降の逝去会員に対し黙祷を捧げた。

2. 理事及び委員会等報告

1) 行事委員会（岡田理事）

2019年度山口大会と2020年度名古屋大会の準備状況が報告され、発表のキャンセルポリシーなど不測の事態への対応について説明があった。

2) 地質学雑誌編集委員会（大藤理事）

編集状況に関する説明があり、新編集委員（栗谷豪会員：北大）が承認された。

3) アイランドアーク編集委員会（田村理事／代理安藤理事）

IFの低下等の報告が行われた。

4) 125周年記念事業実行委員会（佐々木理事）

これまでの事業経過と今後の事業についての報告があった。

5) その他

西 会計担当理事より、2018年北大大会の

会計が適切になされたことが報告された。

審議事項

1. 総会の日程について（斎藤常務理事）

JpGU大会の前日、5月25日（土）に北とびあいで開催することが承認された。

2. 名誉会員推薦委員会委員の選出について（斎藤常務理事）

理事会推薦委員として、磯崎理事が選出され、以下の体制が承認された。

委員長：佐々木副会長

職責委員（各支部長）：竹下 徹（北海道）・林 信太郎（東北）・山崎晴雄（関東）・大藤 茂（中部）・三田村宗樹（近畿）・西山賢一（四国）・早坂康隆（西日本）

職階委員（執行理事会推薦）：官公庁 佃 栄吉（産総研）、小中高教員 米澤正弘（千葉県）

会社 向山 栄（国際航業）、大学 伊藤谷 生（明治大学）

3. 2018年度事業経過報告（案）（松田会長）
山路理事より、法務委員会に関して改善案の提案があり、会長が改善の意向を示した。

4. 2019年度事業計画骨子（案）（松田会長）
資料中の各項目の概要について説明があった。

5. 事務局体制について（安藤理事）

橋辺事務局長の退職が通知され、秋葉文雄さんの新規採用（2019年1月1日をもって事務局長）が承認された。秋葉さんから挨拶があった。

6. 地質学雑誌のありかたについて（斎藤常務理事）

投稿論文数の減少、印刷の費用と送料等に関する説明がなされた後、出席者より数件の意見があった。今後も継続的に意見を募集する旨の通知があった。

以上

2019年1月30日

理事：議長 狩野彰宏

理事：副議長 杉田律子

代表理事：会長 松田博貴

（理事氏名省略）

2018年度第4回執行理事会議事録

期 日：2018年10月20日（土）13:00～17:00

場 所：地質学会事務局

出席者：松田会長 佐々木副会長 斎藤常務理事 安藤 磯崎 大藤 緒方 小宮 坂口 田村 辻森 西 星 廣木

（事務局）橋辺 秋葉

欠席者（委任状提出あり）：平田副会長 ウォリス 岡田 中澤

* 定足数（12、委任状含む）に対し、出席者

14名、委任状4名、合計18名の出席。

* 前回議事録を承認

I 審議事項

1. 執行体制見直しについての方針（佐々木副会長）

1) 主に以下の課題が挙げられる。

・規則と現実の委員会が矛盾している場合がある。

・委員会が組織化されていないものがある。

・委員会の構成が不明なものがある。

・委員会規則が整備されていないものがある。また、委員会によって規則の書き方が異なる。

2) 研究委員会の実態が不明で、規則に定めた更新がされていない。

3) 今後1ヶ月の間に各委員会に問い合わせをして実態を把握する。

4) 3) 項の結果に基づき、12月の理事会で実態を報告し、4月の理事会に見直し案を提案し、5月の総会以降、適切な執行体制に移行させたい。HP、2019年度会員名簿への掲載も考慮する。

2. 「125年学術大会つくば特別大会」開催関連ほか（岡田 代斎藤）

1) 参加費の件

札幌大会発表予定者で事前登録及び当日登録をしていない人の参加費は、当日払いの正規の参加登録費を個別に請求する。札幌の会場に来て参加登録された方からは、当日参加登録費を徴収済み。

発表者ではないが、つくば特別大会にのみ参加する人の参加費：予稿集の残部が100部弱、それを含めた参加費を以下のとおり設定する。正会員・非会員6000円（要旨付）、院生4000円（要旨付）、学部学生・名誉会員・50年会員は無料。

2) プログラムの再編について

特別シンポジウム「前進する北海道地殻構造解明作業—テクトニクス研究の新たな展開へ」についても開催を要請し、2日に開催の予定で調整中。

ポスター発表は1、2日の両日を行う。

3) 産総研の方々の負担にならないよう会場係等のアルバイトを雇う件は、発表件数、プログラムが確定した上で再検討する。

4) 年会報告記事の掲載号について

例年は11月のNews誌に掲載しているが、特別大会と合わせて12月の掲載とする。

5) 札幌で出展された各社に対し、出展の案内をする。ただし、準備可能な机と椅子、ボード、電源の提供のみとする。プログラムが確定した上で早急に案内する。

3. 地質情報展の共催および市民講演会の実施について承認した。（斎藤）

2019年3/29-31 かでの（道民活動センター）を確保し準備を進める。講演会講師も了承済み。

4. 学術大会キャンセルポリシー等の検討WGの設置について(松田)

2年続けて天候・災害のため大会を中止したことから、今後の対応も考慮し、キャンセルポリシー等を作成することとした。また、大会中止の場合の講演の「みなし発表」についても検討する。

5. 名誉会員推薦委員会委員の推薦について

・委員長：佐々木副会長

・職階委員の推薦(執行理事会が推薦)：各1名 以下の方々が推薦された。

官公庁：佃 栄吉(産総研) 小中高教員：米澤正弘(千葉県) 会社：向山 栄(国際航業) 大学：伊藤谷生(明治大学)

・理事会で1名選出(12月の理事会で選出)

・職責委員：支部長7名 竹下 徹(北海道)・林 信太郎(東北)・山崎晴雄(関東)・大藤 茂

(中部)・三田村宗樹(近畿)・西山賢一(四国)・早坂康隆(西日本)

職階委員については、その後全員の承諾を得た。

6. 今後の事務局体制について(安藤)

橋辺菊恵氏は意向により、2018年12月末で退任される。

新しい事務局体制の運用準備のため、2018年10月より秋葉文雄氏を雇用する。10月より12月末を目安として、橋辺氏の業務の一部を引継ぎ、2019年1月から担当する。

事務局職員2名の業務過多と、橋辺氏の業務の一部負担を考慮し、職員1名を新規雇用する。雇用体制及び採用については、財務担当理事ほか執行部で検討する。

以上の事務局の組織・運営の新体制について、12月の理事会で承認を得る。

7. 地質学雑誌のありかた

9月末締めアンケート回答は388件、会員の約1割であった。

8. 12月の理事会開催場所、開催時間および議案について

12月1日(土)の開催は会場及び時間を変更することとした。

会場：産業技術総合研究所内、時間：12:00~14:00(昼食をとりながら)

議案

総会の日程について：5/25(土)、会場北とびあを予定

名誉会員推薦委員会委員の選出について、理事会推薦委員1名の選出

2018年度事業経過報告

2019年度事業計画骨子(案)

事務局体制について

地質学雑誌のありかたについて

その他

9. 年会のプログラム構成について

プログラム構成について、トピックセッション

の構成が固定化している傾向があるので、行事委員会で再検討してもらう必要がある。

II 報告事項

1. 全体の報告

1) 札幌大会の中止となった発表についての代替行事を検討し、12/1-2につくばで産総研の後援を得て「125年学術大会つくば特別大会」として開催することとした。大会委員長：渡部・竹下、事務局：齋藤

2) 中止となった情報展については、3月29日~31日に札幌で開催することとなった。同じく中止になった市民講演会についても、札幌実行委員会を通じて開催する方向で検討中。

3) ブラジル国立博物館の火災被害に関する声明文について：自然史学会連合(大路会長)より上記について連合から声明文を発するに際し、所属学会に対し賛同要請があった。声明文を確認し、賛同することとしたが、一部、文章表現及び文言についての再考を要請した。会長からはその趣旨を了解した旨、返事があった。

4) 地質学会は秋葉文雄氏と10/4に雇用契約を結び、同日から事務局勤務を承認した。

5) 第1回理事会議事録については、回覧捺印に時間を要したが、9月20日に法務局に変更届を提出、2,3の修正を経て登記が完了した。これによって銀行等の代表者変更も行った。

6) 地質学雑誌のありかたについてのアンケートの概要報告(齋藤)

2. 運営財政部会：総務委員会(緒方・西) <共催・後援依頼、他団体の募集等>

1) 日本アイソトープ協会よりの第56回アイソトープ・放射線研究発表会の協賛依頼を承諾した。

2) 深田地質研究所よりの深田研一般公開2018(10/7)への協力依頼(フォトン写真の貸し出し)を承諾した。

3) こどものためのジオカーニバル企画委員会よりの第19回こどものためのジオカーニバル(於大阪、11/3,4)への後援名義使用を承諾した。

4) 蒲郡市「生命の海科学館」より、当学会の第9回惑星地球フォトン入賞作品展の開催(11/17~2019/2/11)にあたり、後援依頼があり、第4回執行理事会で承認した。

5) 山田科学振興財団より2019年度研究援助候補推薦の依頼があった。学会締切1/21まで。→News, Geo-flashに掲載

6) 和歌山県ジオパーク専門員(地形・地質2名)の募集案内、募集期間10/22-11/12→Geo-flashに掲載。

7) 学術著作権協会より権利者向け説明会への参加要請があり、10/2の契約手続きの簡素化と転載許可事業の開始についての説明会に澤木が出席した。

8) 藤原科学財団より第60回藤原賞受賞候補者の推薦依頼を受けた。締切：12/20

9) 地学団体研究会より8/18に開催された同会第72回総会において「高レベル放射性廃棄物の処分について第三者機関による総合的検討と原子力政策の抜本的な見直しを求める」声明文を採択した旨の連絡があった。

10) 大地震で大量に発生するコンクリートは廃棄物でなくて資源化すべきとの、第6回首都防災ウィーク特別決議(要請書)に対する賛同要請及び質問への回答依頼があった。

11) 文科省測地学分科会事務局より、災害の軽減に貢献するための地震火山観測研究計画(第2次)の推進についての意見募集の依頼があった。

12) 日本学術会議事務局より平成30年度協力学術研究団体の実態調査依頼があった。

<会員>

1. 今月の入会者(正会員1名)

杉原 薫

2. 今月の退会者(正(院割)会員1名)

長岡昂吉

3. 今月の逝去者(正会員1名)

大沼恵美子(2018年7月21日)

4. 2018年9月末日会員数

賛助：28、名誉：56、正会員：3602(正会員：3418、正(院割)会員：175、正(学部割)会員：9)、合計3686(昨年比-54)

<会計>

・9/18に科研費の検査をうけた。学振から担当者2名が来所、過去5年間(2013年~2017年)の分について、学振側の書類と学会の保存書類を照合し、今後のこととして、事務処理について2,3の注意があった。結果については後日報告することであるが、まだ報告はない。

・札幌大会の収支については、現時点では赤字にはなっていないが、今後、つくば特別大会での経費についても考慮を要する。

・巡検中止に伴う参加費の返還については、順次返却をしている。会員についてはできるだけ次年度以降の会費に充当することをお願いした。

・Wiley社からのロイヤリティ支払いに関して、Wiley社から外国税額控除制度による源泉税率軽減(30%→5%)のために、地質学会の居住証明書(所轄税務署発行)の提出を求められているので、提出することとした。

・城ヶ島リーフレットの増刷需要が多いので3000部、下敷き1500部の増刷を実施する。

3. 広報部会：広報委員会(坂口・小宮)

一家に1枚ポスター企画「県の石」、「モホ面」の2件が書類審査を通り、9月20日にプレゼンが実施され、辻森・田村両理事が出席した。

・10/19に「県の石」が平成31年度科学技術週間(4月)のポスターとして採用された旨の連絡があり、10/25の打ち合わせには辻森・磯崎の両理事が出席することとし

た。

・地学オリンピック予選参加者に配布する冊子「地球にわくわくミライガイド」に広告としてWeb教材の広告を掲載(無料)してもらうことになった。

4. 学術研究部会(磯崎・ウォリス・岡田・辻森)

(1) 行事委員会(岡田)

・2020年名古屋大会の実行組織:委員長 大路樹生, 事務局長 道林克禎, 巡検担当 竹内 誠, 巡検案内書編集委員長 須藤 齋

・会場 名古屋大学東山キャンパス

・日程 開催年の1月に確定 それまでは候補日で現時点では未定. 候補9/13-15, 9/6-8

(2) 国際交流委員会(ウォリス)

・MOUの更新

ロンドン地質学会とは正式書類にサインの交換をする(郵送での手続き中).

タイ地質学会から, 更新についての連絡があり, 返信中.

(3) JIS, 標準担当(中澤)

・特に進展なし

5. 編集出版部会(大藤・田村)

(1) 地質学雑誌編集委員会(大藤編集委員長)

1) 編集状況報告(10月15日現在)

・2018年投稿論文:70編 [内訳] 総説16(和文16)・論説35(和文32・英文3)・ノート2(和文2)・報告8(和文6, 英文2)・口絵1(和文1)・巡検案内8

査読中:31, 受理済み:26(うち特集号16)

・124巻9月号:125特集号「日本列島」3編+「構造地質その2」3編(計122ページ)

10/12発送済み

・124巻10月号:125特集号「グリーンタフ」3編+通常号3編(計約80ページ)

・124巻11月号:125特集号「応用地質」4編+通常号2 or 3編(計約100ページ)

2) 125周年記念特集号状況(2018年10月15日現在)

3) その他

・編集委員の追加:栗谷 豪(北海道大学, 専門:火成岩岩石学)→12月理事会に報告

・125周年記念特集号への投稿論文の超過頁負担金について, 経緯についての説明があった. 再度関係者の間で調整をすることとした.

・早期公開が遅れている特集号原稿への対応について: Accepted manuscriptにDOIを付して公開することで検討する.

(2) アイランドアーク編集委員会(田村編集委員長)

1) 出版状況報告

・8月にWiley側との交渉で, 編集作業担当を確認できたため, 編集補助者の費用が不要となった.

・Invited Reviewerの提案があったが, 再度編集委員会で検討してもらうこととした.

(3) 企画出版委員会(小宮)

防災国大2018(10/13-14日, 東京)に出展し, 関東支部からの応援を得て Web教材のデモンストレーションを実施した. アンケートの回収70件. 1日目131名, 2日目70名来場者. 報告書を4月に提出予定.

6. 社会貢献部会(星・廣木・中澤)

・とくになし

7. 地質技術者教育委員会

・とくになし

8. ジオパーク支援委員会(平田)

・地震火山子どもサマースクール関係

①2018年度第1回地震火山子どもサマースクール3学会連合企画委員会を11/23(金)にかながわ県民サポートセンターで開催. 本学会からは平田副会長が出席予定.

②2020年度の開催地は, 来年1月中旬から2月上旬に公募, 2月下旬に決定予定.

9. 地学オリンピック支援委員会(星)

1) 小学生のための地学オリンピックーチャレンジ地球ーを実施した. 参加者数は非常に少なかったが, 参加者は大いに楽しめたと思われる. また, 今後の実施の検討材料や参考となるものとして有意義であった.

・クイズ30:東京会場9/17 参加者2名, つくば会場10/7 参加者なし

・ジオパーク探検:10/7 筑波山地域ジオパーク, 参加保護者とも3組6名. 案内者として, 筑波山地域ジオパーク関係者および玉生志郎会員, 酒井彰会員にご協力いただいた.

10. 県の石支援委員会(辻森)

・とくになし

以上

2018年11月23日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会 長(代表理事) 松田博貴
署名人 執行理事 斎藤 眞

2018年度第5回執行理事会議事録

期日:2018年11月23日(金)13:00~17:00

場所:地質学会事務局

出席者:松田会長 佐々木副会長 平田副会長 斎藤常務理事 安藤 磯崎 ウォリス 大藤 緒方 岡田 小宮 田村 辻森 西 星 中澤

(事務局) 橋辺 秋葉

欠席者(委任状提出あり):廣木, 坂口

*定足数(12, 委任状含む)に対し, 出席者16名, 委任状2名, 合計18名の出席.

*前回議事録の承認

I 審議事項

1. 2018年度事業報告案, 2019年度事業計画案(松田)

事業報告案および事業計画案に沿って説明があり, 各項目を確認し問題点を整理して, 文言等の修正点を挙げた. とくに社会貢献のフィールドマスター認定制度については, 検討課題にはするが, 計画骨子に入れるのは見合わせる. 修正案は理事会前にメール配信で再確認作業を行う.

2. 地質学雑誌の通常原稿の早期公開(Accepted manuscript)について

・特集号については実施したが, 通常原稿についても実施することを承認した.

3. 学会事務局の職員交代に付いて(安藤)
・橋辺事務局長退職に伴う, 職員の採用(秋葉氏, 非常勤)と事務局長の交代(2019年1月~), および事務局体制の刷新・業務分担に伴う職員の新規採用の方針が了承された.

4. 理事会の議案確認

・総会日程の確認について

・名誉会員選考委員会委員の選出について

・2018年度事業経過報告(案)

・2019年度事業計画骨子(案)

・地質学雑誌編集委員会委員の追加承認

・事務局体制について

・その他

II 報告事項

1. 全体的報告

1)「執行体制(主に委員会などの組織)の見直し検討」の継続報告(佐々木)
次年度までにさらに整理・検討し, 2020年度以降に実施していく.

2) 大型研究の提案についての進行状況報告(小宮)

・「地球惑星資料のアーカイブとキュレーター施設の整備」の趣旨, 各機関との情報交換状況が報告された.

・日本学術会議 自然史・古生物学分科会「学術資料標本散逸問題検討WG」との連携や日本学術会議, 学術振興会のヒアリングの予定, 応募書類の準備の現況などが説明された.

3) 一家に1枚のポスター作成企画案「日本列島6億年」の準備状況(辻森)

作業日程:入札12月, 納品2月下旬, 4月上旬に配布予定.

4) IGCP(地質科学国際研究計画)608(白亜紀アジア-西太平洋生態系:2013-2017+2018)の活動終了について(安藤)

・地質学会から後援を受けているプロジェクトが, 第6回国際研究集会(11/11-17タイ)をもって満了したとの報告があった.

・国際プロジェクト活動の成果や今後の動向、参加者・参加国の実態について質疑応答・情報交換をした。

5) 地質学雑誌のあり方について、アンケート結果のまとめ(斎藤) 理事会までにまとめて意見の聴取・交換をする。

2. 運営財政部会：総務委員会(緒方・西) <共催・後援依頼、他団体の募集等>

1) 東北大学東北アジア研究センターの公開講演会「地球生命の起源と進化：ひとの誕生と現在から近未来の課題まで」(2019年2/23)への後援依頼を承諾した。

2) NPO法人地学オリピックに本委員会による地球科学普及講演会「地球をぶらり」(2018年11/24)の後援依頼を承諾した。

3) 日本考古学協会第85回総会のセッション「黒曜石の新局面(仮題)」の世話人から、セッション共催の申し入れがあった。このセッションでは日本地質学会会員の講演が予定されている。

経緯を確認した上で承認した。(回覧資料)

4) 日本花粉学会からの倫理綱領作成にあって当学会の綱領を参考にした件について了承した。

5) 斎木会員(自然史学会連合委員)より12/22に自然史学会連合の総会開催の連絡があった。

6) 石油技術協会の平成30年度秋期講演会協賛への礼状が届いた。

7) 新潟大学の学術資料展示館「ジオパークのミュージアム展」協賛への礼状が届いた。

8) 総務省から「消防防災科学技術研究推進制度」平成31年度研究開発課題の募集があった。→News11月号, geo-flash11/6, HPに掲載

9) 科学技術振興機構から戦略的創造研究推進事業総括実施型研究(ERATO)テーマ候補・研究総括候補について広く情報提供を受けるための募集があった。

10) 三菱財団から2019年度助成金公募の知らせがあった。第50回自然科学研究助成の応募期間は2019年1/9～2/6。今年度は若手助成を実施。→News12月号, geo-flash12/3に掲載。

11) 坂巻幸雄名誉会員・赤羽貞幸・長谷義隆両50年会員より顕彰に対する礼状が届いた。 <会員>

1) 今月の入会者(正会員 2名)

加治家隆史 田中館宏橋

2) 今月の退会者 なし

3) 今月の逝去者(名誉会員2名)

小坂 丈 予(2011/11/23)・熊井 久 雄(2018/10/28)

4) 2018年10月末日会員数

賛助：28, 名誉：54, 正会員：3603(正会員：3419, 院割会員：175, 学部割会員：9), 合計 3685(昨年比 -60)

<会計>

・つくば大会の運営協力者に昼食を提供することとした。

・山口大会の運営委託会社選定のため2社に見積もりを依頼、確認して決定する。

・Wiley社からのロイヤリティ支払いに関して、外国租税条約に伴う居住証明書発行の申請を神田税務署にした。

3. 広報部会：広報委員会(坂口・小宮)

・海保会員よりNHKラジオの文化講演会に出演することの広報依頼があり、学術的内容であることと会員のアウトリーチ活動でもあることからgeo-Flash(11/20)に掲載を承認した。

4. 学術研究部会(磯崎・ウォリス・岡田・辻森)

(1) 行事委員会(岡田)

1) つくば特別大会の準備状況

・札幌大会未発表のうち180件の発表(シンポジウム含む)と3件の緊急発表が登録された。現時点で発表キャンセルは14件、確認の返事がないものは「みなし発表」とする。

・出展は6社から応募があった。

・開場8:00, 受付8:30の予定。

2) 山口大会(第126年学術大会)

・開催日程(9/23-25) 鉱物科学会との日程・開催地も考慮して決定した。今後の学術大会はこれまでのように他学会の日程も考慮しながら調整していくが、若手研究者の育成のためにも海外の学会、特にGSAなどの開催日も考慮することとした。

・山口大会の運営委託については、現在地元業者および委託経験会社に見積もりを依頼中。双方の見積もりが出た段階で会計担当と相談・検討のうえ決定する。

(2) 国際交流委員会(ウォリス)

・キューバ地質学会からの学術交流の打診については、具体的な活動の内容や先方の状況を考慮しながら、検討していく。

(3) JIS, 標準担当(中澤)

・特になし

5. 編集出版部会(大藤・田村)

(1) 地質学雑誌編集委員会(大藤)

1) 編集状況報告(11月20日現在)。

・2018年投稿論文：81編 [内訳] 総説18(和文18)・論説42(和文39・英文3)・ノート3(和文3)・報告8(和文6, 英文2)・口絵1(和文1)・巡検案内9

査読中：34, 受理済み：23(うち特集号11)

・124巻10月号：125特集号「グリーンタフ」3

編+通常号3編(計約80ページ) 11/6発送

・124巻11月号：125特集号「応用地質」4編

+通常号4編(計82ページ) 11/22校了

・124巻12月号：125特集号「付加体地質」5

編+通常号1編(計約80ページ) 入稿中

2) 125周年記念特集号状況(2018年11月20日現在)

3) その他

(2) アイランドアーク編集委員会(田村)

1) 出版状況報告

・インパクトファクター向上策としてのInvited Reviewについて、編集委員会での検討にもとづいて問題点を整理した。なお、インパクトの高い論文の投稿奨励策として報奨金を出すなどの意見もあったが、自前の雑誌にはふさわしくないとの意見が大勢のため、再度検討することとした。

(3) 企画出版委員会(小宮)

・特になし

6. 社会貢献部会(星・廣木・中澤)

・来年の地質の日の行事として恒例の「街中ジオ散歩」を準備中。東京都羽村市「羽村の堰」講師：山崎晴雄(首都大)。

7. 地質技術者教育委員会

・特になし

8. ジオパーク支援委員会(平田)

・特になし

9. 地学オリンピック支援委員会(星)

・小学生の地学オリンピック「チャレンジ地球」の参加者にたいし、会長名で賞状を出した。

10. 県の石支援委員会(辻森)

・「国石」の書籍が12月下旬に出版予定。
<https://www.seizando.co.jp/book/7080/>

11. 125周年事業実行委員会(佐々木)

・現在までの事業報告

・「はじめての地質学」について、出版社より電子版にしたいとの要望があり、全著者の了解を得たので承諾した。なお、紙版も並行して出版する。

・収支状況報告の説明があり、3月末決算の予想は1300万の予算で300万弱の支出減の見込みである。

・「県の石」出版については、編集作業が遅れているが、125周年事業として早期出版を目指す。

・4月に最終委員会を行い、5月の理事会で事業報告を行って解散する。委員会での活動資料についてはアーカイブスとして学会事務局に保管する。

以上

2018年12月1日

一般社団法人日本地質学会執行理事会
会 長(代表理事) 松田博貴
署名人 執行理事 斎藤 真